

## 特別賞

### 「世界の水」

芝小学校 五年 宮井紫帆

「外国の水は汚いんだよ。」

と友達に言われた事があった。私は、外国に行った事がないので「まあきれいな水だろう」と思った。なぜなら地球は、水のわく星と言われている事を知っていたからだ。

調べてみるとたしかに水のわく星だったけれど、そのうち99パーセントは、塩水で、99パーセントが、氷河や南極の氷、人間が使えるのは、わずか0.0003パーセントで、それを約30億人で分け合わなければならない。

しかし、日本やアメリカ、ヨーロッパの人達は、きれいな水を使っているが、アフリカやインド等では、汚い水をしかも少ししか使えないという事実を知った。これは、とても不公平だと思う。しかも、アメリカ、ヨーロッパの水でも、そのままでは飲めない国もある。氷などにしてコップに入れ、それを飲むのでお腹をこわしてしまう人もいる。

それらに比べて日本は世界でわずかパーセントしかない、水をそのまま飲める国だ。私たちはそこに住んでいてなんてめぐまれているのだろうかと思う。

水がよごれている国の人は、約10億人。そして毎日4000万人が亡くなっている。世界には、「億人が水不足の状況で生活している。水が不足している国では、1人が1日に使う水の量は約1リットル。それは、日本人が1日にトイレで流す水の量の半分以下しかない。これを知って日本人の水の使い方は、ただの水の無駄遣いではないかと思った。今すぐに水が平等に世界各国にいきわたるのは、無理だとしても、私は、無駄遣いをなくして、限りある水を大切にしたいと思った。そして水不足や水が汚れている等での死亡者を減らしていきたいと思う。

私は、ある雨の日に家のベランダから東京わんを見てみた。なぜか緑色みたいでへんな色だった。もしこれが飲み水になると思うといやだ。でも世界には、緑や土、砂がまざった水を飲んでいる人達がいる。生きていく中で、「水」というものは、アフリカやインドの人にとって、一番大切だけれど、いろいろな事に使える水は、とても大切だ。私達は、そんな水を少しずつ使い、感謝の気持ちをもって大切な水を使っていきたい。